



と [www.tenpla.net](http://www.tenpla.net)

# とプラネタリウム

vol.  
224

高梨直紘 (東京大学) / ☆ 平松正顕 (国立天文台)

今月のお題  
.....

## 暗い星空を目指すための基盤

星に関心がある人もない人も納得して光害対策を進めるために、光害に関連する話題をまとめて発信する取り組みを始めてみました。



「星空を守るためのnote」では、記事のカバー画像をAIお絵描きサービス Midjourney で描いています。これは「海辺で天の川を見上げる少年と少女」の図。

11月8日の皆既月食&天王星食、ご覧になりましたか?好天に恵まれたところも多く、また皆既月食中の惑星食が442年ぶりということでメディアの注目も集まり、多くの方がご覧になったようです。これを機会に、普段の星空に親しむ方が増えてくれれば嬉しいですね。

私は今回もネット中継番組「ウェザーニュースLIVE」で解説を務めました。ウェザーニュースの番組に出始めたのは2013年ですから、もう9年も前。最近では視聴者数もかなり増えてきて、今回は最大同時視聴10万人・延べ220万人と相当な数でした。ウェザーニュースLIVEは基本はお天気番組ですが、アプリ経由で各地のユーザーから送られてくる写真・映像を取り入れながら放送しているところがユニークです。以前ディレクターさんに伺ったところによれば、ある満月の夜にとてもたくさん月の写真が送られてきて、こんなに天文に関心がある人たちがいるのかと驚いたことが天文をテーマにした放送枠を作ったきっかけだったとか。国立天文台の中継番組も200万再生になっていますので、多くの天文台やYouTuberの中継も入れれば相当な数の人が月食をネット越しにも見たことになります。

11月中旬には、東京・日本橋で開催された「宙フェス」にも行ってみました。星を売りにしている鳥取県と大分県、漫画『宇宙兄弟』、おなじみのビクセン、そして日テレ、人工衛星を開発中のソニーという大手の他、アクセサリや文具など宇宙関連グッズのお店もたくさん立ち並んでいました。星を身近に感じられる宇宙グッズたちに多くの方が引き寄せられているのを見ると、直接星を見るわけではなくとも天文関係者としては嬉しさを感じます。これを機会に多くの方が星空に親しんでくれるといいな、と。

そんなことを期待するときに気になるのは、やはり夜空の明るさです。日本では約7割の人が天の川の見えない場所に住んでいると推定されています。もちろん天の川が見えなくても星空を楽しむことはできますし、例えば東京都心で天の川を見られるようになればいいとまでは私も思いませんが、でも降るような星空をもっと気軽に体験しやすくなればいいなとは思っています。

本誌読者なら過剰な光がもたらす「光害」についておそらくご存じだと思います。私は「光害」は世間でもそれなりに認知されていると思っていたのですが、実はそうでもないということを最近思い知りました。いやはや、見えていた世間が狭かったようで恥ずかしい限りです。

きっかけは、国立天文台ウェブサイトの広報ブログに「秋の夜長に考える、私たちの回りのこと」を執筆し、また個人的に「星空を守るためのnote」を書き始めたことでした。これをきっかけに複数の取材依頼があり、「光害」という言葉に初めて触れたという方もいらっしやっただ

です。多くの人が既に知っている話題なら取材依頼も来ませんので、取材が相次いだこと自体、光害が認知されていないことの証とっていいでしょう。

個人的noteを始めたのには理由があります。光害に関する研究は国内外で様々に行われていますが、電波天文学出身の私はこれまで直接触れることがありませんでした。光害対策に取り組むにしても、先人たちの努力を活かさない手はありません。ですので、まずはこれまでに行われている光害の研究の結果と、ニュースで取り上げられる光害関係の話題をまとめておこうと思ったのです。関心を同じくする方にも便利に使っていただけるのではないかと期待もあります。光害はたくさんの人が関わる事柄なので、ひとりではできることは限られます。多くの人の知見を集めつつ、利害が相反する方たちとも話し合いながら、着実に進めていきたいと考えています。

光害の研究にもさまざまあって、人工衛星によるリモートセンシングを活用したり、様々な生物への影響を評価したりと非常に幅広いものです。天文学とは別の方法論や知識が要求されることもあって論文を読むスピードはなかなか上がりませんが、論文以外にも有用な情報をまとめていきたいと思っていますので、関心のある方はぜひ一度ご覧ください。

「星空を守るためのnote」 | <https://note.com/parsonii>